

# 行政視察報告書

行政視察の結果について、下記のとおり報告します。

令和8年3月 3日


光市議会議長 森戸 芳史 様

議員 森戸 芳史

## 記

- 1 調査年月日 令和8年2月3日（火）～4日（水）
- 2 調査市等 岡山県 奈義町（人口5,420人、面積69.52㎡）  
少子化対策について  
  
岡山県 笠岡市（人口43,472人、面積136.07k㎡）  
廃校の活用 「海の校舎」について
- 3 調査結果 別紙のとおり

## 調査結果

日 時	令和 8 年 2 月 3 日 (火) 13 : 30 ~ 16 : 00	
調査市等	岡山県奈義町	
調査事項	少子化対策について	
説明者	副町長 金田 知巳 情報企画課 長畑 光洋	


- **奈義町の概要** : 平成 14 年 12 月に合併の意思を問う住民投票を行い「単独町政」を選択。投票率は 75% でその内、約 70% が合併しないを選択。人口は 5,420 人 (R 7 年 4 月 1 日現在)、世帯数は 2,396 世帯 (R 7 年 4 月 1 日現在)、面積は 69.52 k㎡、自衛隊日本原駐屯地があり行政区の約 2 割が演習場で隊員数は約 500 人。特定防衛施設整備金として年間約 7 千万円が入る。中心部から半径 2 km に人口の 8 割が定住するコンパクトシティ。国定公園那岐山、横仙歌舞伎、奈義町現代美術館が立地。
- **視察目的** : 合計特殊出生率 2.95 奇跡のまちとマスコミなどで紹介された岡山県奈義町の少子化対策について視察。令和 5 年 2 月に岸田総理が訪問され視察をされており、施策、成果、背景、課題、今後の動向を伺った。
- **子育て関連施設**  
 チャイルドホーム : 子どもと大人が世代を越えて、交流できる施設。  
 なぎっ子こども園 : 保育園 1 園、幼稚園 2 園を統合し定員 250 人のこども園を整備。園小中で給食費無償化。  
 小中学校各 1 校 : 中学校は令和 6 年建て替え完了。小中で教材費無償化。
- **人口の推移** : 2020 年、国調 5,578 人、2030 年 5,422 人、2040 年 5,154 人。2020 年以降は社人研推計 + 出生率 2.3 維持 + 移動均衡。
- **子育て応援宣言のまち** : 地域ぐるみの子育てを目指し平成 24 年に制定。制定後子育て世代の意見が出やすくなった。令和元年に合計特殊出生率 2.95 を記録。
- **切れ目のない経済支援** : 主産祝い金 10 万円、保育料多子軽減 18 歳までカウントこども園小中学校給食費無償化、小中学校教材費無料化、高校生までの医療費無料大学生に町独自の奨学育英金で卒業後に町への定住で全額免除、特定不妊治療を受けた方に県の助成を引いた額の二分の一以内で年額 20 万円助成、在宅育児保護者に毎月 1 万 5 千円の支援金、高校生への就学支援として年間 24 万円の支援金、中学 3 年生までの子どもを育てるひとり親に年間 5 万 4 千円を支給し第 2 子以降は 1 人 2 万 7 千円加算などがあり、一般会計予算規模約 50 億円のうち子育て・教育単独事業費は約

3億円。(一般会計に占める割合は5～6%)

- 特徴的な子育て支援策：町民同士で支え合うなぎチャイルドホーム。子育てしながら空いた時間に働きたいというニーズをかなえる一般社団法人しごとえん（町民主体で法人化）が実施するしごとコンビニ事業。こども議会を開催し小学校校庭へのバスケットゴール設置やごみのポイ捨て条例の制定など予算化や条例制定にもつながっている。ALTの幼児教育からの下配。工業団地整備による企業誘致、40歳以下または子育て世帯や定住者を対象とした賃貸住宅を整備。総戸数81戸が満室で、町で民間賃貸住宅の建設を助成（戸建て賃貸300万円／戸、集合住宅150万円／戸、空き家リノベによる賃貸150万円／戸）。分譲地整備では分譲地の紹介報奨制度（30万円）や新築住宅普及促進事業補助金（町内新築20万円、地元業者施工30万円、家族加算合わせて上限100万円）、民間分譲住宅整備補助（1区画当たり50坪以上で補助対象は造成工事費で上限は1区画当たり100万円）。空き家対策事業補助金（空き家購入上限150万円、家財整理30万円、除却補助上限150万円：空き家バンク登録物件）、空き家活用事業（所有者から町が12年の長期契約で空き家を借り上げ改修し貸し出す制度）、結婚新生活支援事業（住宅委の購入、リフォーム、賃貸、家具や家電の購入に使用できる補助金）など。

#### <所感>

合計特殊出生率が高い背景は、経済的支援策では光市と比較しても大きく変わらないが、平成の大合併の住民投票では合併せず、町民が一つにまとまっていったこと、コンパクトで行政効率の高さ（1小1中学校）、平地で空気もきれいで自然に恵まれた住みよさ、ALTを幼稚園に配置するなど全国学力テストでは県平均や全国平均を上回る教育力、地域ぐるみの子育て支援、毎年開催の町主催19地区での意見交換会による意見聴取によるボトムアップの施策づくり、子育て応援宣言により、意見が出しやすくなったこと、地域イベントでのこどもの参加、相談機能による精神的支援にも注力している等が挙げられる。課題は特殊出生率や出生数の減少が予測され、若年女性人口の減少対策と社会減対策が急務。光市に活かすとするれば、子育て世代との意見交換会の定期開催や、こどもの育成のため地域コミュニティのイベント等を通じこどもたちを巻き込む仕組みづくり等が挙げられる。市街に出ていった若者にどう帰ってきてもらうか、移住してきた人の定住化、今住んでいる人にどう定住してもらうかを突き詰める必要がある。

日時	令和8年2月4日(水) 9:30~12:30	
調査市等	岡山県笠岡市	
調査事項	廃校の活用「海の校舎」について	
説明者	海の校舎 代表理事長 南 智之	

### ●笠岡市の概要

岡山県笠岡市は、県南西部に位置し、温暖で災害が少ない気候が特徴である。山、海、島に囲まれた豊かな自然があり、歴史的・文化的な資源にも恵まれている。2026年1月1日時点での推計人口は41,703人で、前年から2.1%減少している。このまま人口減少が進むと、2040年には約3万4000人、2060年には約2万2000人まで減少する可能性がある。

### ●視察目的

光市では高度成長期に建設した公共施設が老朽化し、その更新費用と維持管理費の抛出が大きな課題で、公共施設白書や公共施設等総合管理計画が策定し適正配置や適正管理を進めてきたが、計画策定から約10年が過ぎようとしているが延べ床面積の削減は進まず、むしろ増加している状況である。4小学校が1小学校に統合され現在その利活用が早急な課題となっており、調査に伺った。

### <海の校舎>

- 岡山県笠岡市の旧大島東小学校と幼稚園舎を活用したシェアアトリエである。瀬戸内海を望むロケーションで、クリエイターたちが制作活動を行う拠点となっている。
- 海の校舎に入居しているクリエイターたちは、多岐にわたる分野で独自の創作活動や制作活動を行っている。様々な分野のクリエイターが集まることにより、交流から知識や技術のシェアが生まれている。
- 海の校舎の運営は、外部のシェアオフィス運営会社に業務委託をせず、自身の仕事を持つ入居者兼 NPO 理事が主な運営者となっていることが特徴である。業務の多い代表理事に対する報酬は発生している一方で、その他の運営メンバーはボランティアで業務を行っている。
- 運営資金は、主に賃貸料と視察料で賄われており、2024年度の収入合計は約1,020万円で、支出合計は約945万円であった。
- 昔ながらの木造建設であることから、雨漏りや台風対策、シロアリをはじめとする害虫駆除などのハード面の管理が大きな負担になっている。また、将来修理が必要となり得る修繕金の確保ができていない。

- 地域交流と活性化を目的として、「クラフトマルシェうみの市」を定期的で開催している。海の校舎に入居するクリエイターや外部の作家、飲食店などを招き、個性豊かな作品の展示販売や飲食の提供が行われている。2023年4月に開催された第4回うみの市では、来場者数2,300人、出店者数66社と大規模なイベントとなった。このように、地域住民の思い出の場所である廃校が再活用され、にぎわいの創出につながっている。また、クリエイターだけでなく、顧客や地域住民との交流の場が生まれることで、新しいコミュニティが形成されている。

#### <所感>

- これまでに多くの廃校の利活用を見てきたが、行政にとってこれほどまでにありがたい存在はないのではないかとと思われる。それは運営者が施設全体を賃貸し、インキュベーションも行い、イベントでは集客も行い、施設を媒介として移住も行われた。施設に入居する企業が東京等での販路も開拓し、雇用も生まれている。行政にとって貸し出す前の修繕等には少しお金がかかったかもしれないが今のところリスクは感じられなかった。課題としてはレトロだが老朽化も激しいので修繕等の費用負担が大きな課題ではないだろうか。すべて事業者に求めるのは酷な気がする。光市として笠岡の事例を模索してほしい。